



キルギス共和国日本語教師会会報

第53号 2019年8月23日発行

Вестник Ассоциации преподавателей

японского языка

Кыргызской Республики

№ 53 от 23.08.2019 г.

キルギス日本語教師会創立20周年特集号

祝辞

キルギス共和国日本語教師会創立20周年の節目にあたり、皆様に心よりお祝いを申し上げます。

キルギス共和国は、中央アジアにおいて我が国が初めて深い関係を結んだ国家であります。また、中央アジア各国の中でキルギスは人口当たりの日本語学習者の比率が一番高い国であると言われています。それ程親日的であり、日本語や日本文化に興味・関心を持たれる方々がこの国に多くおられることを私共はとても心強く、また、たいへん喜ばしく思います。

日本語学習者の方々は、外交・文化・教育・経済等様々な分野において両国の架け橋となるかけがえのない財産であります。この財産を日々育てられる日本語教師会の先生方、そして教師会を支える会員や支援者全ての方々の多大なるご尽力とその活動に対し、深く感謝いたします。当館としましても、貴教師会の皆様と手を携えながら、これからもキルギスにおける日本語教育の発展に尽力していきます。

二十歳を迎えられた貴教師会の益々のご発展と皆様のご活躍を心より祈念しつつ、私からの祝辞といたします。



駐キルギス特命全権大使 山村 嘉宏



キルギス日本語教師会創立 20 周年 —創立からの会員の思い出—

ヴォロビヨワ・ガリーナ ビシケク人文大学准教授、博士

今年キルギス共和国日本語教師会は 20 周年を迎えます。1999 年、私はキルギス日本センターの 4 年間の日本語コースを卒業し同センターの日本語教師として働き始めましたが、それと同時に教師会に入会しました。教師会は 1999 年 10 月総会で規約と内規が定められ正式に発足しましたが、キルギスの日本語教師の活動はそれ以前から始まっています。例えば、1999 年の春にはキルギスで第 3 回中央アジア日本語弁論大会を開催しています。当時は大勢の日本人が日本語教師として活躍していました。中でも教師会創設の原動力となるなど重要な役割を果たしたのはキルギス日本センターの萩原幸子先生、ビシケク人文大学の三井先生、キルギス国立総合大学の高嶺先生でした。また、ビシケク人文大学の滝先生は規約と内規の成文化を担当されました。教師会では創立から長く毎月 1 回総会を開き、活動について話し合ってきました。



萩原先生とキルギス日本センターの第一期生



萩原幸子先生 (左) 2012 年



三井勝雄先生 (右) 2012 年



氏原名美先生 (右) 2005 年

初代会長にはビシケク人文大学とキルギス日本センターで教師をしていたチョンムルノフ・チムール先生が選ばれました。そして 2000 年から 2004 までは私が会長を務めました。会長に就任した私は、まず現地教師も日本人以上に活発に教師会活動に参加することを目指して日本語とロシア語による教師会会報の



特集号で 53 号となります。いまや読者はキルギスだけではなく、世界各国で読まれています。

創立当時、教師会活動の最も重要なイベントは日本語弁論大会でした。国内大会は春と秋の年 2 回、ウズベキスタンとカザフスタンと順番に開催担当国となった中央アジア日本語弁論大会は 3 年に一度開催してきました。

の発刊を提案しました。2000 年、私は萩原先生の後任で教師会事務局を担当してくださった中林先生と当時副会長だったキルギス国立総合大学のミヘルチッチ・ヤネズ先生と一緒に会報第 1 号を発行しました。以後、会報は年に数回のペースで発行され、今回の



しかし、弁論大会には出場しないけれど熱心な学習者が大勢いました。そんな学習者が力を発揮する場を設けるべきだと考え、私は作

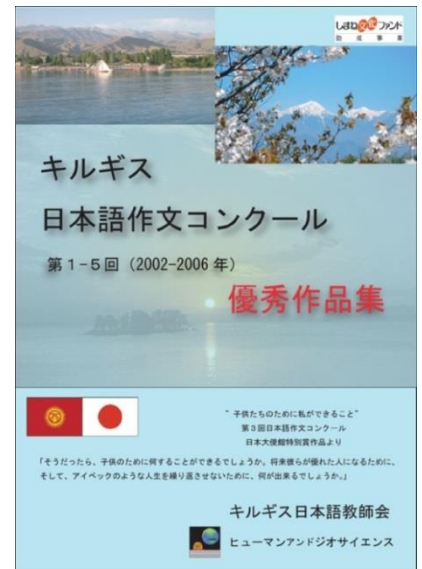


文コンクール開催を提案しました。協力者が現れたからです。協力者は島根県のNGO Human&Geoscience代表の岩田昭夫さんでした。作文コンクールはその後10年以上続き、岩田さんからは毎回賞品と参加賞がキルギスまで届けられてきました。



第1回作文コンクールの参加者

中林先生は日本センターで初めて上級日本語コースを開きました。主にビシケク市の日本語教師が受講生となりました。そのころ、教師会には若々しくエネルギーに溢れた JOCV 隊員がいて積極的に活動していました。初期の日本語隊員は、ビシケク人文大学の新留尚子さん、高橋知也さん、入山美保さん（のちアラバエフ名称国立大学配属に）、キルギス国立総合大学の三森優さんでした。また、まだ北海道教育大学の学生だった大西由美さんがビシケク人文大学と国立総合大学で補助教員として日本語を教えていました。私達は『みんなの日本語 I』をベースに模擬授業を順番に行ったり、キルギスの統一カリキュラム作成を目指して様々な国の実際を調べたり、文法教材の作成準備のための研究に力を注いでいました。



2003年4月から日本センターは所轄が JICA となって日本語コースは国際交流基金の指導のもと活動し始めました。中林先生は国際交流基金日本語教育専門家になり、私は日本語コースの主任講師になりました。

2004年に中林先生の後任として黒滝力先生が国際交流基金から派遣されてきました。黒滝先生はキルギスの日本語教育のリーダーとして日本語教育普及と発展に全力を尽くしてくれました。黒滝先生は日本センターの仕事以外にもビシケクに限らずキルギス各地の日本語教育機関に出向いては日本語授業をビデオに撮って分析し、授業をいかに改良すべきか教師にアドバイスしていました。日本語教師養成コースも開きました。取り組んだのは日本語教育だけではなく、黒滝先生がスタートさせた「さつき祭り」、「もみじ祭り」、「音楽祭」などの文化行事に JICA ボランティアとともに力を注ぎました。さらに、今は中央アジアで唯一の和太鼓演奏グループとして人気を誇る「大江戸太鼓」は、黒滝先生の指導のおかげで日本センター所属のグループとして本格的に活躍できるようになりました。黒滝先生と同時期に国際交流基金日本語指導助手の渡邊知積先生が日本センターに派遣されていましたが、渡邊先生は日本センター翻訳・通訳コースを開講し



ました。渡邊先生の提案によって朗読コンテストが始まりました。教師会は日本語弁論大会、作文コンクー

ルに続き、朗読コンテストを主催し、日本語教育普及活動はますます活発になっていきました。作文コンクールと朗読コンテストはしばらく開催されていませんが再開を期待しています。



国立国語研究所の横山先生、私、元 JOCV 渡辺裕美さん、高橋知也さん
(2012 年名古屋大学 国際日本語研究大会)



黒滝先生を囲んで、JOCV と日本センター学習者
(2004 年「もみじ祭り」にて)

教師会は研究活動もしています。中央アジア日本語弁論大会開催に合わせて日本語教育セミナーを実施していますし、国内弁論大会の際はキルギス日本語教育セミナーも開催しています。2013 年 8 月から国際交流基金の助成事業として始まった夏季日本語教育セミナーは 2017 年から「キルギス日本学・日本語教育国際研究大会」と名称を改め、今年は第 3 回大会です。毎年 8 月最終日に実施していますが、毎回基調講演には著名な研究者をお招きし、参加者は中央アジア、ロシア、日本各国から集まります。



第 4 回キルギス日本語教育セミナーの参加者 (2016 年)



『キルギス日本語教育研究紀要』 第 1 号と第 2 号の編集委員会

創立から 20 年、キルギス日本語教師会の活動は多様化し、ある分野では活動が縮小した部分もありますが、全体として今までの活動を振り返ればキルギス共和国日本語教師会は大きく発展したと言えます。今まで何十人もが教師会会員として活動に参加してきましたが、この短い原稿では全ての人について書きつくすことはできません。それでも、この特集号には私の一文以外にも大勢の方の原稿が掲載されるはずですから、それぞれの方の語るエピソードから教師会の歴史がより明らかになることでしょう。

教師会現会員の皆様、元会員の皆様、賛助会の皆様、キルギス共和国日本語教師会創立 20 周年を皆様とともに祝いたと思います。キルギス日本語教師会の今後一層の発展を祈っています。



キルギス日本語教師会 20 周年への祝辞

国際交流基金 日本語第 1 事業部 部長

村田 春文

キルギス日本語教師会設立 20 周年に際しまして、お祝いの言葉を述べさせて頂き、大変光栄です。

このたびは、貴教師会設立 20 周年おめでとうございます。1999 年の設立以来、貴教師会は、キルギスにおける日本語教育の発展に大きく貢献されました。その活動は、日本語・日本文化の普及に留まらず、キルギスと日本の間の相互理解促進に資するものでした。2015 年 8 月に日本国外務大臣表彰を受章されたことは、貴教師会の活動が、日本とキルギスとの良好な関係の構築に貴重な役割を果たされていることの証左であると言えます。



近年では、キルギス唯一の日本語教育に関する学術的研究大会である「キルギス日本学・日本語教育国際研究大会」を実施され、同研究大会には、中央アジア諸国から多くの参加者を得て開催されたとのこと、貴教師会を中心として、日本語教育に関する国際的なネットワークの構築が進んでおりますことに関しましても大変喜ばしく感じております。

キルギスにおける日本語教育は、人口に対する日本語学習の数が多いうことが一つの特徴に挙げられますが、学習者が更に増加しているとの報告も受けております。今後とも貴教師会におかれては、学習者の日々の学習の成果を披露する大切な場である日本語弁論大会の開催や、日本語



教育に関する知識の共有に重要な役割を果たす学術研究大会、より多くの人々に日本語に触れて頂く機会を提供する出前講座、現地教師の方々の更なるスキルアップに繋がる教授法講座等の活動を通じて、キルギスにおける日本語教育をさらに推進して頂けると幸甚です。

最後に、設立以来 20 年に亘り、貴教師会がキルギス及び中央アジア地域の中核的な存在として活躍されてきたこと

に改めて謝意を表します。中央アジアにおける日本語教育事情は、国によって大きく異なる中、今後も貴教師会の先進的な動きに注目しております。国際交流基金は、今後も各国の状況に応じた効果的な支援策を検討して参りますので、引き続きご協力をお願いいたします。

Поздравление с 20-летием Ассоциации преподавателей японского языка Кыргызской Республики

**Харуфуми МУРАТА,
руководитель 1-го отдела проектов по японскому языку Японского фонда**

Я очень рад предоставленной возможности поздравить Ассоциацию преподавателей японского языка Кыргызской Республики с 20-й годовщиной ее создания. Поздравляю вас с этой знаменательной датой. С момента создания в 1999 году ассоциация внесла значительный вклад в развитие обучения японскому языку в Кыргызстане. Ваша деятельность не только способствовала распространению японского языка и культуры, но также помогала развитию взаимопонимания между Кыргызстаном и Японией. Получение награды министра иностранных дел Японии в августе 2015 года является доказательством того, что деятельность ассоциации играет важную роль в укреплении дружественных отношений между Японией и Кыргызстаном.

В последние годы ассоциацией постоянно проводится единственная в Кыргызской Республике научная конференция, связанная с преподаванием японского языка - «Международная конференция по японоведению и преподаванию японского языка», в которой принимают участие и представители других стран Центральной Азии. Я очень рад тому, что ваша ассоциация играет центральную роль в развитии международной сети преподавания японского языка.



Одной из особенностей преподавания японского языка в Кыргызской Республике является то, что число изучающих японский язык по отношению к численности населения страны велико, и по поступающим сведениям число учащихся еще увеличивается. В будущем для вас очень важно продолжать проведение конкурсов ораторского искусства на японском языке, которые предоставляют учащимся уникальную возможность демонстрировать результаты ежедневного обучения. Также важную роль в обмене знаниями о преподавании японского языка выполняют научные конференции. Вы можете и дальше продвигать обучение японскому языку в Кыргызстане с помощью таких мероприятий, как выездные курсы, которые предоставляют большему количеству людей возможность изучать японский язык, и курсы методики преподавания, которые способствуют дальнейшему совершенствованию навыков местных преподавателей.

В заключение я хотел бы еще раз искренне поблагодарить вашу ассоциацию за неустанную работу в течение 20 лет с момента создания в качестве ведущей организации в Кыргызстане и Центральной Азии. Ситуация с обучением японскому языку в странах Центральной Азии значительно различается, и мы будем продолжать уделять внимание постоянному движению вперед вашей ассоциации преподавателей. Японский фонд и в дальнейшем продолжит рассмотрение эффективных мер поддержки в соответствии с ситуацией в каждой стране, и мы просим вас продолжать сотрудничество.



国際交流基金アジアセンター専任講師 阿部洋子

キルギス日本語教師会、創立 20 周年、おめでとうございます。

会報を通して、キルギスの日本語教育が豊かに発展していく様子をととても嬉しく、かつ頼もしく思っておりました。日本から遠く離れた地で、日本語教育を大事に育ててくださった関係者の皆さまのご尽力に、敬服の意を表すると共に心よりの感謝の気持ちを申し上げます。短いようで長い 20 年間をずっと支えてこられた方々、次世代につながるために活動を継承してくださっている方々、明日からの教師会を作っていくくださる方々、本当にありがとうございます。

また、私個人もキルギス教師会が与えてくださる刺激に、いつも叱咤激励されていると感じていたこともお伝えしておきたいと思います。



国際交流基金日本語国際センター専任講師 八田直美

キルギス日本語教師会の皆さん、設立 20 周年おめでとうございます。

ガリーナ先生から会報を送っていただき、毎回楽しく拝見しています。セミナーやスピーチ大会などの実施報告は、参加者や司会の皆さんの感想があるのがとてもいいと思います。皆さんが仲良く、協力的な様子がよくわかります。会報には、日本人の寄稿記事もあって、キルギスで教える日本語教師だけでなく、ご家族やいろいろなきっかけでキルギスを訪れた人が書いているのも興味深いです。皆さん、すっかりキルギスが好きになるようですね。

私はまだキルギスに行ったことがありませんが、日本語国際センターの研修プログラムに参加した日本語教師の皆さんを通して、日本語を楽しく学ぶキルギスの学習者や豊かな自然や文化について知ることができました。熱心な先生方と学習者の皆さんの活動を支える教師会が今後もますます発展することをお祈りしています。

国際交流基金日本語国際センター専任講師 柴原智代



キルギス日本語教師会創立 20 周年、おめでとうございます。

キルギス建国数年のうちに日本語教師会が誕生し、活発な活動を 20 年も続けてきたことに驚くばかりです。まさに、継続は力なり、です。20 年の間には、摩擦や危機もあっただろうと推察いたしますが、それを乗り越え、温かく、開かれた、そして、切磋琢磨する学びの共同体を作り上げられましたね。次の 20 年はどんな展開になるのでしょうか。

これからもますますの発展を楽しみにしています。



元国際交流基金日本語国際センター図書館専任司書 坂井千晶

キルギス日本語教師会創立 20 周年、心よりお祝い申し上げます。2016 年より 3 年間勤務いたしました国際交流基金日本語国際センター図書館は、国内外における日本語教育の促進を目的とし、1989 年に設立された日本語教育に関する専門図書館です。世界約 70 か国・地域の日本語教材や日本語教育分野の資料を収集・所蔵していますが、貴教師会の存在のおかげで、キルギス共和国日本語教育情報が入手しやすく、強く印象に残りました。

定期的にメールでご寄贈いただく電子版会報がその一例ですが、どの号も先生方の様々な取り組みや学習者が生き活きと勉強する様が伝わってくる行事や研究会の報告が満載でした。目を引く豊富な写真は、バイリンガル構成の記事で異なるものが使われていて、情報量を増やす工夫がされていますし、日本語とキルギス語でのバイリンガル版かと思いきや、読者層が広がるロシア語で発行していると伺い、司書としても興味を覚えずにはられない刊行物です。加えて、図書館にとっても嬉しいことに、会報と紀要『キルギス日本語教育研究』の両方がホーム・ページでオープン・アクセス提供されています。バックナンバーでアクセスできる会報第 1 号を見ると白黒 4 ページでした。キルギス日本語教師会の活動の確かな発展を感じました。他にも教師会ネットワークのおかげで、様々な人の手を経て、キルギスの教材・資料が図書館に届けられました。ありがとうございました。キルギス日本語教師会のより一層のご発展と会員の皆様のご健勝と今後ますますのご活躍を心からお祈りしております。

在ロシア日本大使館 経済部一等書記官 井上 広勝

皆様、こんにちは。2006年～2009年まで在キルギス日本大使館で日本語教育を担当しておりました井上広勝（いのうえ・ひろかつ）でございます。

キルギス日本語教師会が創立されてから20年を迎えるにあたり、心からお祝いを申し上げます。当時、私は日本語の授業を拝見する機会がありましたが、すべての先生が授業の準備を丁寧にされ、日本語を熱心に教えていらっしゃいました。また、キルギスにおける日本語教育のレベルアップのため、日本語弁論大会や各種行事の準備に奮闘されていたことを今でも鮮明に覚えております。皆様のご努力に心から感謝申し上げます。

現在、私はモスクワで勤務しておりますが、近いうちに、是非キルギスを再訪したいと願っております。その際には、皆様にお会いしたいです。

どうぞ、健康にはくれぐれもご留意され、キルギスでご活躍ください。それでは、失礼いたします。

浜野道博

2006-2009年キルギス日本センター所長
現在 ANO日本センター（ロシア）所長

キルギス日本語教師会20周年おめでとうでございます。自主的な組織がここまで長く活動を続けて来られたのは多くのメンバーの献身的な努力の賜物と頭が下がる思いです。是非これからもキルギスにおける日本語教育の発展のためにお力添えを下さい。

世界は一路英語全盛の時代に向かっており、その他の言語の学習は特殊教育化しています。その一方で人類に必要なのは対等な異言語習得だという思いが多くの人々の心をとらえて離しません。海外での日本語の普及と教育はこのほとんど永遠の葛藤の中にあります。しかし、生きた言語の持つ文化のみずみずしい内実は日本語を教えて来られた教師のみなさんが共有する宝です。

これからもこの宝がより多くのキルギスの若者のものになるように願っています。

黒岩幸子

モスクワ市立教育大学客員講師
国際交流基金日本語上級専門家

（キルギス在職：2010年1月25日～2013年3月31日）

キルギス日本語教師会設立20周年、おめでとうございます。

キルギスは隠れた日本語教育大国ですね。ビシュケクの街の中で「こんにちは」と声をかけてくださる方がそれほど珍しくなかったのを懐かしく思い出しています。多くのキルギスの方が何らかの形で日本語に触れたことでしょう。

キルギスでは1991年独立後の早い時期に日本語教育が始まりました。熱意溢れる教師が黎明期を支え、その後、日本から教師も派遣されるようになり、日本語講座だけでなく、日本語・日本文化関連行事なども熱心に行われ、大小様々な形で日本・日本語を楽しむ場が幅広く提供されてきました。

私がキルギスに赴任した2010年は、そのような行事がひと段落し、キルギスの先生方が日本語教育の中心となる方向へ進む時期でした。2013年の離任後は、キルギスの先生方の役割はより大きくなり、学術的な面でも発展してきたことと思います。

当時のキルギス日本語教育を一言で表すと、大規模ではないがまとまりがよい！でした。20年は決して短くない期間であり、その間、様々な出来事があったと思います。私もキルギスを離れ、現在はモスクワで業務にあたっています。モスクワから中央アジアを眺めると、教師会の定例会だけでなく、国際学術シンポジウムを継続的に開催しているのはキルギス日本語教師会だけであり、この点は非常に誇るべき点だと思います。一時期に比べ、教師会の人数は減っていると耳にしていますが、着実に歩みを進めていると思いますので、どうか誇りを持ち、この先も皆様が歩んでいかれることを少し離れたところから応援させていただきます。

20周年は現在の会員の力はもちろんですが、それだけではなく、現在は離れているとしても、キルギスの日本語教育にこれまで様々な形で携わった全ての方の力によるものでしょう。まずは、20年もの間、会を続けてこられた方、現会員の方に心から敬意を表し、今後の会の発展をお祈りいたします。また、それと同時に、私を含め、何らかの形でキルギスの日本語教育に携わった方が、末永くキルギス日本語教師会の応援を続けていくことを願っています。



Приветствие от Общества «Россия–Япония» Ассоциации преподавателей японского языка Кыргызской Республики



Общероссийская общественная организация Общество «Россия–Япония» поздравляет Ассоциацию преподавателей японского языка Кыргызской Республики с 20-летием деятельности.

За этот период наше Общество неоднократно публиковало информацию о конкурсах ораторского искусства, научных конференциях и других мероприятиях вашей ассоциации в еженедельном бюллетене «Окно в Японию» (<http://ru-jp.org>), а также на сайте ОРЯ. На сайте ОРЯ (<http://russiajapansociety.ru>) есть ссылка на URL «Вестника Ассоциации преподавателей японского языка Кыргызской Республики». Чтение Вестника дает яркую картину насыщенной жизни вашей ассоциации и состояния преподавания японского языка в вашей стране, а также культурного взаимодействия Кыргызской Республики с Японией.

Цель нашего Общества – содействовать развитию и укреплению добрососедских отношений между народами России и Японии, деловых связей между Россией и Японией, знакомить российскую и японскую общественность с историей, культурой и другими сторонами жизни обеих стран. Однако мы уделяем внимание и информации, поступающей из организаций стран СНГ, имеющих отношение к Японии. Ваша ассоциация является одной из таких организаций.

Мы желаем Ассоциации преподавателей японского языка Кыргызской Республики дальнейших успехов, надеемся опубликовать на сайте Общества «Россия–Япония» и в бюллетене «Окно в Японию» новые интересные материалы о вашей деятельности

Президент ОРЯ

Председатель ЦП ОРЯ

Ответственный секретарь ОРЯ

Игорь Романенко

Галина Дуткина

Евгений Кручина

「口日協会」より「キルギス共和国日本語教師会」の皆様へ

全ロシア非政府組織「口日協会」より、キルギス共和国日本語教師会の活動 20 周年を祝してご挨拶いたします。

口日協会は今までに、貴会が開催された弁論大会、学術会議、およびその他のイベントについて週刊ウェブニュース『日本への窓』（<http://ru-jp.org>）とホーム・ページ（<http://russiajapansociety.ru>）に幾度となく掲載させていただいています。ウェブサイトでは「キルギス日本語教師会会報」のリンクも紹介しています。会報を読むと、貴会の活発な活動、貴国における日本語教育の現状、そしてキルギス共和国と日本の相互文化交流の有様が目に浮かぶようです。

口日協会の目的は、ロシアと日本の人々どうしの親密な隣人関係とロシアと日本の国どうしのビジネス交流を発展させより強固なものにすること、また、それぞれの国民に互いの歴史、文化、暮らしぶりを様々な角度から知らせることです。一方で、私どもは CIS 諸国の日本と関わりのある機関や団体から発信される情報にも注意を払っています。貴会はまさにそのような組織のひとつです。

キルギス共和国日本語教師会が今後一層の成果を挙げられますよう、お祈り申し上げます。私共も口日サイトおよび『日本への窓』を通じて、これからも引き続き貴会の活動に関する新鮮で興味を喚起するような様々な情報を公開していきたいと思っています。

ロシア日本協会 会長

ロシア日本協会 理事長

ロシア日本協会 事務局長

イーゴリ・ロマネンコ

ガリーナ・ドゥートキナ

エフゲニー・クルチナ



ウズベキスタン日本語教師会からの祝辞

ウズベキスタン日本語教師会を代表して
イブラギモヴァ・マリカ
ウズベキスタン国立世界言語大学 日本文学・日本語学科 学科長

キルギス日本語教師会の皆様

キルギス日本語教師会設立 20 周年、おめでとうございます。1991 年にキルギス共和国が独立し、国が大変な状況の中、現地日本語教師がゼロに近いところから日本語教師会が設立され、現在に至るまでに多くの実績を築いてこられました。キルギス共和国の発展に繋がる日本語教育の拡大、多くの日本語ができる人材の育成、日本語弁論大会、日本語教育セミナーなどの開催、そして中央アジア唯一のキルギス日本語教師会会報、研究紀要の発行などは中央アジアの日本語教育のみならず、世界の日本語教育の発展に多大な貢献をしていると思われま



す。今までも色々なことで協力しあってきましたが、これからもウズベキスタン日本語教師会の会員は、キルギスの皆様と手を繋ぎ日本語教育の発展、強化のために力を尽くしていきたいと思っています。

タジキスタン日本語教師会からのお祝い

キルギス共和国日本語教師会 20 周年おめでとうございます。20 年続けるには大変な努力が必要だったと思います。キルギス教師会はイベントの開催だけではなく日本語教育紀要を出版するなど幅広い活動をされています。

タジキスタン日本語教師会は 3 年前発足したばかりの新しい教師会です。これからどんな活動をするか方向性もまだはっきり決ま



っていません。2019 年の中央アジア教師セミナーで他の国の教師会の活動の様子を知ることができました。タジキスタン日本語教師会も先輩の教師会のように活発な活動ができるように会員一同力を合わせて頑張っていきたいと思っています。

キルギス共和国日本語教師会のますますのご発展をお祈り申し上げます。

教師会設立 20 周年おめでとうございます！

根元佐和子

フランス パリ南日本語補習校
ヨーロッパ日本語教師会 (AJE) 役員



この度は、キルギス共和国日本語教師会 20 周年記念という、素晴らしい年のニュースレターにお言葉を寄せさせていただける光栄な機会をいただき、大変感激しています。

私は、貴会のニュースレターのファンで、毎回、ヨーロッパ日本語教師会 (AJE) の会員メーリングリストから拝読しています。私は、現在フランスに在住していますが、フランス日本語教師会で元役員としてニュースレターを担当していました。また、現在は AJE 役員として昨年までニュースレター担当でした。そのような役員経歴もあり、毎回ヴォロビヨワ先生からお送りいただくヴォリュームのある素晴らしいキルギスからの新鮮な便りは、編集者の皆様のご苦労と意気込みが感じられ、いつも一気に読み上げてしまいます。

なかでも、学生さんたちの弁論大会やセミナーでの参加者のエネルギーは、ひしひしと本当に力強く伝わってきます。みなさんの日本語のレベルも大変高く、日本語教育関係者の熱意にもたいへん驚かされます。そして、日本語とロシア語の二言語編集のコンセプトも言語教育に携わるニュースレター担当者の繊細な意識を感じさせられます。2019 年 4 月 51 号の元教師会会長様への弔辞を読ませていただいた時は、教師会を通してみなさんのお気持ちが一つにまとまっているのを感じました。

私にとってキルギスは未知の国です。ですが、記事に挿入してあるさまざまな写真を見ると、キルギスの学生さんや先生方の時に真剣な表情やにこやかな笑顔にふれ、さまざまなイベントでの熱気や活気に満ちた教室の様子、さらには、雄大な自然の景色などにも触れられ、私の人生ではまだ経験したことのない空間へご招待をいただけ、これもまた読む醍醐味の一つとなっています。

貴教師会が今後も益々発展し、キルギス共和国で日本語を学ぶみなさんのために大いなる支えになることを心より願っています。

貴教師会が今後も益々発展し、キルギス共和国で日本語を学ぶみなさんのために大いなる支えになることを心より願っています。

公益社団法人 ヨーロッパ日本語教師会	
	2019 年 7 月 第 64 号
Newsletter	
Association of Japanese Language Teachers in Europe e.V.	
目次: 会長挨拶 マルチェッラ・マリ奥特ティ 1 ベオグラードシンポジウム 基調講演案内 2 シンポジウム実行委員紹介 5 シンポジウムスケジュール 6 現地実行委員より①	<p>ベオグラードシンポジウム特集 「ローカル・グローバルな日本語・文化教育」</p> <p>第 23 回 AJE シンポジウムは 8 月 29~31 日、セルビアの首都ベオグラードでの開催です。本 64 号はシンポジウムとベオグラードに関する情報を中心にお送りいたします。</p>  <p style="font-size: small;">カレメクダン要塞からの景色(平野達也氏提供)</p>

国名・漢文字記号駆使力・継続は力

Dr. 山田ボヒネック頼子 Dr. Yamada-Bochynek, Yoriko
ヨーロッパ日本語教育学研究所（ドイツ登録社団法人）代表
EIJale European Institute for Japanese Language Education e.V.

キルギス日本語教師会創立20周年心よりおめでとうございます。

これに至るまでの教師会・会報の成長・発達は、一重にビシケク人文大学准教授・ヴォロビヨワ・ガリーナ博士の時空間を共にする「仲間」を惹きつけずにはおかない人となり、さらに協働実践研究者のみなさまのご尽力の賜物と信じます。記念祝賀年の情報を戴き、ガリーナ先生よりお祝いのことばを求められた私の「思い」は、本題とした「①国名、②漢文字記号駆使能力、③継続は力なり」の3語彙表現に凝集しました。以下「三題噺」としての私からのお祝いの言葉を述べてみます。



2004年 於東京早稲田大学 最初の出会い

その次の出会いは10年余前になる欧州圏内での「漢字教育法・方策論」研究発表の場でした。先生はご発表のマクラにご出身の国名を挙げました。「キルギス…イギリスでもなく、ギリシャでもなく、キリギリスでもなく、キルギス（会場：笑）という中央アジアの共話国です」。この日本文化言葉遊び基盤の導入部は、非常に受け、会場に発表者の一人として座する私にも鮮やかな脳内刻印をもたらしたものでした。

②漢文字記号駆使力：日本語は、今から1500年前に漢字を採り入れ始め、千年余をかけて「漢字仮名交じり文」の表記法を完成させました。しかし、この「中国語文字＝漢字」の「日本国字化」を含む日本語は、16～17世紀のポルトガル人宣教師たちをして「悪魔の言語」と言わせたほどに習得困難度の高いものでした。そしてその後500年経った今でも、L1（母語・第一言語）日本語教育界の日本学校教育体制内で一文字一文字「書いて覚える」しかないという指導法以外には効果的な学習法は開発されてきていません。しかし、現行地球規模でのグローバル化風潮の中、日本語表記言語の「読み・書き」は、欧州CEFRの複言語・複文化教育理念圏内にあつて「L2（外国語としての日本語）話者」にも「産出・受容」両面で獲得されるべき記号運用能力です。ガリーナ先生は、漢字学習の困難さを克服するためにご自身のロシア文字学習経験に立脚した最小構成要素分析か

①国名：ガリーナ先生との最初の出会いは2004年春のことでした。私は2003～4年国際交流基金フェローシップ研究者として早稲田大学日本語教育研究科に滞在中、身体論基盤新規山田式日本語教育法（後述 KanjiKreativ [KK] を含む）についての講演をしたのですが、幸運にも先生はそこに臨席してくださった。先生もやはり基金支援研究滞在中で、講演内容がご自身の研究志向と軌を一にすることからと講演後話しかけてくださり、左掲記念撮影の宝物となりました。



ガリーナ先生パワポより：キルギスは イギリスでもなく、ギリシャでもなく、キリギリスでもなく…

ら始められ、ご自身の IT 能力に基づき、「24 書記素・漢字構成要素：漢字の分解と構成要素の計量的分析に基づいた学習漢字の最適な掲出順序の開発」に挑み、漢文字成立をストーリーによる連想記憶法（『漢字物語 I, II』2007）にまとめられました。

筆者自身も 2003 年に、プログラマーとグラフィック・デザイナーとの協働体制で『KanjiKreativ:E 学習プログラム』を創成しました。漢字研究大御所白川静が「日本の国字」と明記する漢文字は、記号学的には、オリンピック種目のアイコンや交通標識のように、「見て意味がわかればよい」という性質の記号群です。いわゆる「漢字の読み」とは語彙の「音化」のことに他ならず、例えば日本のトイレのドアに「男・女」と書いてあれば、それを「otoko : on'na」と「読めなくても＝音化できなくても」、さらには「書けなくても」、意味を解説し、正しいドアから入って行ければよいわけです。全常用漢字（当時 1945 字：2010 年改訂後 2136 字）の集中的脳内刻印を図る方策群の開発・研究を通して、筆者はガリーナ先生と同じ目標に向かう者として、大いなるご教示を戴いてきています。ガリーナ先生、多謝！



拙著 KanjiKreativ E 学習プログラム呈示の授業風景

③継続は力なり：これは日本の古典的な諺ではありませんが、私が日本語教育界に入ってから習った表現の一つです。「キルギス教師会設立、会報発刊、日本語教育研究会発足」とガリーナ先生の 20 年に亘る、弛まなく充実した活動ぶりを実践研究の足跡として追いつけてきた筆者は、ただひたすら「すごい！まさに継続は力！」と深い感銘を受けるのです。

ガリーナ先生は、国立国語研究所主催「NINJAL フォーラム 世界の漢字教育」講演会（2014.9.02 於一橋大学）に「日本・台湾・フィリピン・インド・キルギス・イタリア諸国」から各国代表の招聘講演者の一人として登壇なされました。つまり、先生の「継続して成長し続ける」実践研究結果の世界的評価です。



無論、キルギス教師会・日本語教育実践研究がここまで

至るのには、笑顔の素晴らしいガリーナ先生ご自身の人となりだけでなく、先生と「協働体制でがんばるキルギス圏内の日本語教育に関与する諸先生方」の総合的ご尽力の賜物だと信じます。その上に立ち、なおかつ、ガリーナ先生の起爆力・創造力・伝染力・継続力を思う時、キルギス日本語教師会の「20 周年」が、一国キルギスだけにとどまらず、中央アジア・欧州圏、ひいては世界に伝播しうる日本語教育界の布石となるよう願ってやみません。心より、おめでとうございます。



2014 年 東京一橋大学 NINJAL フォーラムにて 国研構造研究系横山詔一教授と

キルギスの日本語教師会、日本語関係者の皆様へ

三森 優（独）国際交流基金派遣日本語専門家 ノボシビルスク国立大学客員講師



キルギス日本語教師会の皆さん、創立 20 周年、おめでとうございます。この度、教師会会報編集委員長であるビシケク人文大学のヴォロビョヴァ・ガリーナ先生から寄稿のご依頼を受け、創立 20 周年をお祝いするため、筆を執りました。

とはいえ、実は数年前にキルギス日本語教師会会報へ寄稿した折に、既に私のキルギス日本語教師会への想いは書きましたので、申し訳ないのですが、実のところあまり書くことを思いつきません…。ですので、簡単な文章となりますが、ご了承ください。

私が JICA 青年海外協力隊の一員としてキルギス国立民族大学（現、キルギス国立総合大学）へ赴任したのは、2002 年から 2004 年なので、もう 17 年前、離任の年であれば 15 年前の話です。離任の年の冬に一度キルギスへは旅行したのですが、それ以来キルギスの地を踏んでいません。風の噂では、首都ビシケクもかなり変わったと聞いています。そして、キルギスの日本語教育に関わる皆さんや、その周りの環境も大分変わったのだろうな、と想像しています。

私がキルギスにいたのはこのようにもうだいぶ前の話になるのですが、キルギスとは実は今でも不思議なご縁を感じています。2008 年から国際交流基金の派遣で私はいろいろな国にいますが、昨年、日本にいる間の短い期間、千葉県にある日本語学校で少しばかり教えていました。そこでは私の遠い後任となるキルギス国立総合大学最後の日本語教師隊員の荒屋敷（長谷川）さんと一緒に働いていました。また、その期間にキルギスから日本に研修に来ていたドゥイショノワ・ナリーザ先生をはじめとする先生方とも会えました。初代と最終派遣者が日本で同じ日本語学校におり、さらに、たまたま日本にいるその間にキルギスの同僚と日本で会う、そんなこともあるんだなあ、と本当に不思議に感じています。

キルギスの日本語教育界では、今では国際学術会議も開催できると聞いています。私は、当時個人的には、一緒に働く皆さんがキャリアを積み、漠然とそうなれたらいいとは思っていましたが。私は初代派遣だったので、私の派遣を含め 5 代 10 年でそうな道筋が見えるよう、まずは目の前の学生、そして同僚の皆さんの力になろうと、ただただ当時の自分ができる全てを出し尽くそうとしました。若かったですし、自分にはそれくらいしかできませんでした。しかし、キルギスにいる皆さんは、今、当時の私が漠然と想像していた未来を既に皆さんの力で成し遂げられています。キルギスの日本語教育界は、本当に底力のある、そんな人たちが集まっているところなのだなと、改めて実感しています。

先日、2019 年の中央アジア弁論大会の様子を特集した教師会会報を読みました。そこには、当時、弁論大会のため一緒に頑張ったサマコワ・イバラットさんの文章が載っていました。その文章を読み、「ああ、自分がキルギスで一生懸命に蒔いた種はとも立派に育ってくれているんだな」と、私は救われた気がしました。私自身、不惑を越えたにもかかわらず、未だに悩んだり迷ったりしています。しかし、キルギスからの便りとなるこの会報を読む度、「何やってんだよ、頑張れよ」と言われる気がします。

これからも私は悩むことがあるでしょう。しかし、そんな時、この会報を通じてキルギスの皆さんの頑張りを知ること、勇気をもらうことができます。前へ前へと進む、そんな皆さんのこれからの益々のご活躍を心よりお祈りしています。

元・ビンケク人文大学(2002-2005年)高橋 知也

20周年、おめでとうございます。

私がキルギスで過ごしたのは20代の最後の日々でしたが、そのときの経験が日本語教師の仕事が続けていく上で今でも役に立っています。

この先、キルギス日本語教師会がどのような歩みが続けていくのか、30周年、40周年の知らせをどこかで受け取ることを楽しみにしています。



在ケニア日本国大使館にて (2019年)



ビンケク人文大学の皆さんとの食事会 (2005年)



ケニアで働いていたとき

20周年を祝して

ハサノワ・ナイリヤ 医学翻訳者
元キルギス日本語教師会会員 (アメリカ、フィラデルフィア)

キルギス共和国日本語教師会とのご縁は、私が日本センターの日本語コースで勉強しはじめたときに始まります。日本語教師会のメンバーは地元キルギスの日本語教師と日本からいらした教師の方々とで成り立っていましたが、みなさんととても友好的で心の温かい方ばかりで、私はすぐに親近感を覚えました。

日本語教師会主催の弁論大会に参加したことは、その後の自分にとってとても役立つ経験だったと思います。日本センターの高橋先生、ガリーナ先生、そして黒滝先生に発音指導から始まってスピーチするときの呼吸の仕方、効果的なジェスチャーなど、多くのことを教えていただきました。日本センターを修了した後も、プレゼンテーションの機会があるたびにスピーチ練習で教わったテクニックを駆使して口頭発表することができました。

日本センターの非常勤講師として日本語ビデオコースと日本語初級講座を担当した時も、日本語教師会の皆さんに大にお世話になりました。日本語教育セミナーでは、キルギス全体の日本語教育の状況や抱えている問題について協議し、どのように問題に取り組んでいくのか、課題を設定し計画を立てていきましたが、話し合いの後は、学生に対する日本語指導についてロールプレーなどで楽しく有意義な日本語教授法を学ぶこともできました。

教師会の行事に参加したお蔭で日本の文化や習慣だけではなく、日本の味まで良く分かるようになりました。日本人の先生方が、当時はキルギスではなかなか手に入らなかった豆腐や納豆などの食材を使って美味



しい日本食を作り、私たちに味わせてくださいました。先生方は、教師会のセミナー以外にも公開授業に誘ってくださったり、当時はビシケクでは日本語能力試験が実施されていなくてカザフスタンで受験したのですが、私たちと一緒にアルマティまで出かけてくださったり、休日にはみんなで山登りを楽しんだり、わくわくするような愉快的なことばかりで、いまおもいだしても胸がいっぱいになります。

この場をお借りして、キルギス共和国日本語教師会の会報編集局ヴォロビヨワ・ガリーナ先生、ロディナ・ガリーナ先生、そしてミヘルチッチ・ヤネズ先生に感謝の気持ちを表したいと思います。

日本語教師会のますますのご発展と会員の皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

キルギス共和国日本語教師会創立 20 周年に寄せて

元 JOCV (ビシケク人文大学派遣)
川久保 華世 (KAWAKUBO Hanayo)



キルギス日本語教師会創立 20 周年おめでとうございます。20 年の歴史を紡いで来られた会員の皆様、先輩の先生方のご努力に心より敬意を表します。私自身、同期の会員や職場の同僚と教師会発足当時の先輩の皆様に支えられながら、キルギスでの日本語教師生活を有意義に、また大変楽しく送らせていただきました。

私は 2011 年から 2013 年までビシケク人文大学第 5 代目 JOCV としてキルギスに赴任しておりました。JOCV 日本語教育隊員は任務終了後も日本語教育の現場に留まるとは限りません。でも、キルギス隊員の多くが今尚世界各地で日本語教師を続けているという事実を嬉しく、誇らしく感じています。キルギスの日本語教育とキルギス日本語教師会のみなさんが JOCV 日本語教師を育ててくださったお陰だと思えます。お世話になった先生方とご関係者の皆様に改めて心より感謝申し上げます。



在任中には、ビシケク人文大学の他、日本語教育を行っている大学、日本センター、小学校などを訪問させていただきました。そして、母校で日本語を教えたいという思い一つで小学校で日本語授業をスタートさせた先生や、日本語を通してキルギスの発展に役立つ人材を育てたいと民間日本語学校を設立した先生など、志の高い先生方がたくさんいらっしゃることを知りました。また、教室では漢字学習のため教科書のふり仮名を消去したり、実際に書道の筆使いを見せながら教えられたりと現場の先生方が様々な工夫を凝らして教えていらっしゃるのに感心しました。そして、数々の日本語イベントを通して、配属先以外の日本語教育機関の教師や生徒の皆さんと出会えたことも私にとって貴重な体験となりました。その中でも今の教師活動につながっていることの一つをご紹介します。

その一つをご紹介します。

当時は JICA が行うイベントや小学校の訪問先で「一日にほんご講座」をさせて頂く機会が多くありました。最初は「コミュニケーションの楽しさ」を体験してもらおうと、あいさつや、知らない人と簡単な会話ができるようなゲームを企画していたのですが、どうもあまりうまくいきませんでした。いろいろ考え、今度は「文字」を体験してもらうことに変更してみたところ、多くの人が楽しんで参加してくださいました。大人にも子供にも異国の文字であるひらがなは大変珍しいようでしたが、特に子どもたちはそれぞれの文字に音があることを知ると、他の文字の音も知りたがりです。そうやって、文字から音を発見することで、夢中になってひらがなを学んでくれました。そこにヒントを得て、その後のイベントや小学校で日本語講座をするときには、いろ



いろはひらがなゲームを行うようになりました。このひらがなゲームはどこでやっても、多くの人に楽しんで頂くことができました。これらの体験を通して「学ぶ」ということは「発見」であり、「発見」は「喜び」であることに気づきました。そして、教室のなかでも「発見」できるような授業を心がけるようになりました。これは私がキルギスで日本語教育に携わり、貴重な経験をさせて頂いたからこそ得られたものでした。また、ここでの「一日にほんご講座」のイベント経験は、その後、ロシアに赴任した際にも小学校訪問や日本語イベントを実施する上で大いに役立ちました。



シベリアのマンモスと

現在は、キルギスが御縁でつながった新設3年目の日本語学校に勤務しています。勤務校にはまだキルギスの学生はいませんが、今年からウズベキスタンから数名の学生が入学してきました。彼らの話す言葉を聞いたり、みんなすぐに会話が上手になる様子を見て、キルギスの学生たちの「話し上手」を思い出す毎日です。キルギスで感じた漢字や文字の問題について、改めて向き合っている最中でもあります。

日本国内の日本語教育は現在、様々な面で大きな転換期を迎えています。近年学生の出身国が大きく変化し、今までの経験や考え方では対応しきれない状況にあります。だからこそ、キルギスで経験したことが教師としての視点や、問題意識の幅を広げてくれていると感じています。

最後になりましたが、これからもキルギス共和国日本語教師会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

キルギス共和国日本語教師会創立 20 周年おめでとうございます！

荒屋敷里子（旧姓：長谷川） ARAYASHIKI SATOKO

私は 2011 年 7 月から 2014 年 2 月まで首都ビシケクにあるキルギス国立総合大学で JOCV として活動していました。ビシケクといえば特に背の高いブナやカシの木の街路樹がすばらしいです。時々、上からドングリが降ってきたり、朝起きると窓にリスが張り付いていたりして驚いたものです。



大好きな場所はもちろんオシュ・バザールです。色とりどりの野菜とスカーフ、大きなバターの塊、吊り下げられた肉！パンとナン！中身の不明なペットボトルに詰められて売られている何か。今でもそこにいるかのように、はっきりと景色や音や匂いを思い出せます。

私はすごく仕事熱心でも研究熱心でもないから、あまりキルギスの日本語教育に貢献できなかったけれども、日本語を教える仕事を通じて、キルギス各地でたくさんの親切な人たちに出会って素敵な時間を過ごしました。先生方の家でおい

しいプロフやフンチョーザを食べたこと、学生とコニャックをのんで騒いだり、マンティやラグマンと一緒につくったこと、日本センターの盆踊り、タラスやナリンの先生や日本語学習者との交流会…。キルギスの皆さんにたくさんのエネルギーをもらいました。

そして今、私は JICA ボランティアの訓練所で働いています。日本の若者が無事、JICA ボランティアとして各国で活躍できるように語学のお手伝いをする仕事です。私がボランティアとして、また日本語教師としてキルギスで得た経験とエネルギーを次のボランティアにつなげて、社会に還元したいと思っています。

今後のキルギス発展のため、日本語教育の発展のため、微力ながら日本から応援しています。

キルギス共和国日本語教師会創立 20 周年に寄せて 教育と研究を両輪に

四国大学 全学共通教育センター 助教 西條 結人



キルギス共和国日本語教師会会員の皆様、教師会創立 20 周年おめでとうございます。こうして、会報の記念号に原稿を寄せられることを心から嬉しく思います。機会をくださったキルギス共和国日本語教師会に感謝いたします。

私は 2015 年から 2017 年まで国際協力機構（JICA）青年海外協力隊（現在の JICA 海外協力隊）の日本語教育隊員としてビシケク人文大学に勤務していました。日本語教師会の思い出としては、キルギス日本語教師会紀要『キルギス日本語研究』の発刊と、毎年 8 月に開かれる「キルギス日本学・日本語教育国際研究大会」の 2 つが特に印象に残っています。

私が着任した頃のキルギスの日本語教育は、熱意と実力を兼ね備えた先生がたくさんいるにもかかわらず、情報が発信、共有されていないように思いました。春と夏には日本語教育セミナーを開催して、日本や中央アジアの日本語教育専門家からレクチャーや会員による勉強会、実践報告を行い、教授法など日本語教育方法のスキルを高める機会となっていました。教師会の外へ成果を発信するという点においては、まだまだ不十分のように感じていました。そこで、夏のセミナーを受け身型の教育セミナーから発信型の研究大会にし、日頃の実践や研究の成果を日本や中央アジア各国からのゲストや教師会会員が集まる場で発表する、という機会を設定したいと考えました。2017 年 8 月に第 1 回研究大会が開催され、その後も会員にとっては 1 年に 1 回の実践報告・研究発表の機会であるとともに、中央アジアやキルギスに関連する日本学・日本語教育を専門とする研究者や教育者の集いの場としても機能しているようです。今年は 8 月下旬に第 3 回大会が開催予定とのことで、「発信型」の研究大会がこうして続いていくことに第 1 回大会の企画・運営に関わった人間として非常に喜ばしく思います。



また、教師会紀要『キルギス日本語教育研究』については、大学紀要や学会誌に論文を投稿したくても、「教員の給与に比べて投稿にかかる費用が高く、投稿できない」というキルギスの現状をどうにかしたいという当時の編集委員の先生方（ヴォロビヨワ・ガリーナ先生、ジュヌシャリエワ・アセーリ先生）の強い思いが形になった学術雑誌です。創刊号にはキルギスだけではなく、ウズベキスタンやカザフスタンからも原稿が寄せられ、中央アジアの日本語教育研究の成果を収録した 1 冊となりました。この紀要は、教師会ウェブサイトでもダウンロードできるようになっていますが、モスクワ国立大学図書館や日本の国立国会図書館等にも寄贈されており、実際に手に取って読むことができます。今後も、キルギスや中央アジアの日本学・日本語教育研究の成果を世界に発信する場として機能してほしいと願っています。

キルギス共和国日本語教師会が、教育と研究の両輪から日本語教育を盛り上げていくことで、キルギスや中央アジアの教育現場の課題を共有したり、世界に向けて研究や実践の新しい発見を発信したりすることができるのではないかと思います。キルギス側から世界に向かってアクションを起こしていけば、それがきっかけとなってキルギスと日本や世界各地との距離が近くなり、学術研究や文化交流がより盛んになっていくにちがいないと期待しています。



私の原点

アクマタリエワ ジャクシルク 東京外国語大学 講師

キルギス共和国日本語教師会 20 周年、教師会の皆様、まことにおめでとうございます。

あれから 20 年なのかと、今この原稿を書きながら当時のことを思い出し、胸にせまるものがあります。日本



語教師会設立以降、20 年の間に時代も状況も大きく変化しましたが、日本語教師会の活動がどんどん活発になっているのがよくわかり、私はいつも応援しています。20 周年というのは人間でいえば 20 歳、立派な大人です。キルギス共和国日本語教師会も様々な事業に取り組み、一つ一つ成果をあげながら立派な組織になったのだと改めて感じております。すべて、キルギス教師会の活動を支えてきた先生方のおかげです。

2001 年 2 月 11 日 (2 列左から 2 番目が中林理絵先生)

私は 2006 年まで日本語教師として働いていました。キルギスの日本語教師会の活動に私が直接携わるようになったのは、2000 年の 9 月からです。ちょうど日本語教師になったばかりのころでした。いま思い返すと、はじめは日本語を教えるどころか、まともな日本語も知らなかったように思います。それでも、アラバエフ教育大学の伊藤広宣先生が日本語教師として採用してくださったのが私の日本語教師会会員としてのスタートでした。

当時の日本語教師会は、定期的に会議を開いたり、弁論大会、能力試験など様々のイベントに取り組み始めたばかりでした。私たち現地の教師たちは、イベント開催の度に達成感を味わう一方で反省点ばかりという、事業に取り組むことの難しさと意義を実感する毎日でした。

日本に来てから何年も経ちますが、教師会が本格的に活動を始めた当初から教師会の設立と発展に力を注いでもくださった先生方、今でも活躍されている氏原先生やガリーナ先生、日本センターのスタッフだった高橋千佳子先生など、多くの方のことをいつも思い出しています。中でも、私にとって特に忘れられない先生は、今は亡き中林理絵先生です。

中林先生は日本センターに日本語教育の専門家として派遣されていました。先生との思い出は私の心に深く刻まれています。中林先生は、学習者への指導はもちろんですが、日本語教師の養成に特に力を注いでもくださいました。当時、中林先生と私はペアを組んで中級クラスを担当していましたから、毎回、中林先生と一緒に教室に入って授業をしたものです。主に私が授業を進める役でしたが、先生はいつもそばにいて、私が学習者の質問に答えられなかった時や困った時など、適切なフォローをしてくれました。そして、授業が終わると教案の書き方をはじめ、授業の進め方をわかりやすく丁寧に教えてくださいました。今、当時を思い出すと、私は授業を担当しながら実は贅沢で一番多くのことを学んだのだということがわかります。あの時の経験が私のその後の人生にとっても役に立っています。中林先生に教わったことは、まさに私の原点だと言っても過言ではありません。中林先生と過ごした日々は本当に懐かしく、今でも昨日のことに思い出します。中林先生は、私たち教師の個性を尊重し、教師として人間としてしっかり自立できるよう、のびのびと育て導いてくださいました。キルギス共和国日本語教師会は設立当初から、優れた指導者に恵まれていたのだと、よく思い返します。素晴らしいネイティブの先生方が私たちノンネイティブの現地の日本語教師の成長を手助けしてくださったことに対して、今更ながら感謝の気持ちでいっぱいです。

現在、キルギスで活躍されているノンネイティブの先生方、そして、世界の多くの国の中で特にキルギスを選んで日本から来てくださったネイティブの先生方、心からお礼を申し上げます。

最後になりましたが、今後も教師会のますますのご発展と皆様のご活躍をお祈り申し上げます。



2004 年日本国大使主催の天皇誕生日祝賀レセプション

「澄んだ空 つながる手と手 キルギスで」

迫田久美子（キルギス日本語教師会賛助会員 広島大学・国立国語研究所）

私が初めてキルギスを訪れて受けた印象を川柳にしたのが、タイトルに掲げたものです。どこまでも続く澄んだ青い空、果てしなく広がる大地、目の前で動く本物の牛飼いや羊飼いの群れ、素晴らしいユルトの住居、生まれて初めての体験の連続でした。半世紀以上生きてきたわが身にとって、キルギスの体験は、文明に翻弄されることなく、人々が自然と共存することの大切さを気づかせてくれたように思います。



キルギス日本語教師会 20 周年、おめでとうございます！

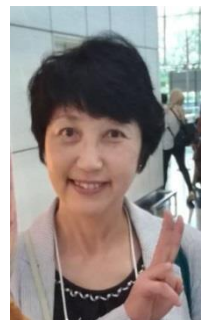
キルギス人日本語教師の皆さんと日本人のネイティブ教師の皆さんが共に心をつなげて歩み始め、20 年間、手と手をつないでキルギス日本語教師会の強固な基盤を築いてこられたのです。昨年のシンポジウムに参加して、多種多様な発表内容、玉石混淆の発表に全員の参加者が一つひとつ丁寧にコメントし、互いに切磋琢磨する皆さんの様子に「キルギス日本語教師会」の発展を願う同志の熱い想いを感じました。まさに、「学び合い」の原点ですね。

私も遠い日本の空から手を伸ばして、キルギスとつながってほしいと思います！

キルギス日本語教師会 20 周年おめでとうございます

関麻由美（キルギス日本語教師会賛助会員 津田塾大学非常勤講師）

教師会の活動の一つである会報を毎号楽しみに拝読しています。会報の第 1 号が発行されたときの教師会会長だった、ビシケク人文大学のガリーナ・ヴォロビヨワ先生とは、JSL 漢字学習研究会という研究会で知り合い、その後もずっと親しくさせていただいています。漢字という共通の研究テーマが、私たちを引き寄せてくれたのですが、実は、そのほかにも不思議なご縁がありました。私が大学院生のときに関わっていた研究グループに、私たち学生のために教え方の指導などをしてくださっていた先生がいらっしゃいました。ある日、今度、キルギスに日本センターができるので、そこで指導をすることになったとおっしゃり、お別れしました。その方がガリーナ先生の日本語学習の最初の先生、萩原幸子先生だったのです。



今、萩原先生は東京にお住まいです。現在は体調がすぐれず、残念ながら今回この会報に記事をお寄せいただくことは叶いませんでしたが、あちらこちらの海外で日本語を教えていらした萩原先生にとって、キルギスは最も長く滞在された思い出の地だそうです。教師会が 20 周年を迎えたことを申し上げますと、頑張っていますねと感激されていました。今回の会報をきくと、心待ちにされていることと思います。

最後になりましたが、キルギス日本語教師会のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

教師会活動 20 年を振り返って

ドゥイショノワ ナリーザ
キルギス国立総合大学 日本語上級講師

キルギス国立総合大学を卒業した 1997 年、私は日本語教師として総合大学の東洋学部（現国際関係東洋学部）で日本語教師としての活動を始め今に至っています。

私が教師として働き始めたときは、日本語教育に関連する主なイベントは、中央アジア日本語弁論大会と教師のシンポジウム、それに CIS 日本語弁論大会くらいでした。二つの国際弁論大会に学生を参加させるため、キルギス国立総合大学、ビシケク人文大学、日本センターの日本語教師が集まって話し合いをしていました。教師たちの会合は、当時の日本センターに外交協会から派遣されていた日本人の先生が中心となって開かれ、会場はいつも日本センターでした。

1998 年にキルギス国立大学に東洋言語文化大学が新しく設立され、その後、相次いで高等教育機関だけでなく初等中等教育機関でも日本語が第一外国語、あるいは第二外国語として教えられるようになりました。

1999 年にキルギス共和国日本語教師会が設立されてから、徐々に教師会の活動が増え始めました。外交協会派遣の日本語専門家や教師会会長はじめ、各機関の日本語教師が弁論大会などのイベントに取り組みながら、日本語教授法セミナー、勉強会に積極的に参加するようになりました。

私は 2004 年 3 代目の日本語教師会会長になりました。教師会会長として 2004 年から 2006 年まで活動し、1 年をおいてまた 2007 年から 2010 年まで会長を務めました。この 20 年の間、キルギス共和国日本語教師会の活動は多様化し、より活発になってきていると感じています。キルギスにおける日本語教育発展のために日本語教師会は多大な貢献をしていると思います。

今までも、またこれからも、キルギスの日本語教師の成長には在キルギス日本国大使館や国際交流基金の支援が不可欠ですし、キルギス共和国日本語教師会が引き続き活動を続けていくためにも、各機関の日本語教師全員が積極的に活動に参加してくれるよう願っています。



キルギス共和国日本語教師会創立 20 周年を会員の皆様とともに祝いたい

スバンベコワ・チョルポン ビシケク人文大学上級講師

教師会の皆様、キルギス共和国日本語教師会創立 20 周年を会員の皆様とともに祝いたいと思います。

私の教師会との初めての出会いは 2008 年の秋でした。大学 5 年生でしたが、人文大学の日本語日本文学講座の助手として採用されたので、キルギス共和国日本語教師会の一員に加えてもらいました。当時は、まだ日本語もよくわからなくて、最初から最後まで日本語で話し合われる教師会の総会の時間がとても長く感じられたものです。

でも、時間が経つにつれて、教師会は大学では教えてもらえない貴重な経験ができる場だということがわかってきました。中央アジア日本語弁論大会の応援団として後輩たちと一緒にタシケントを訪問したこと、初めて弁論大会の実行委員になったこと、中央アジア日本語教育セミナーでハラハラドキドキしながら実践報告をしたこと…。思い出すと、どれもが貴重な経験でした。



もちろん、複数の人たちと一つの事業に取り組むと、やはり誤解や不満なこともありましたが、それらを乗り越えて、みんなで一緒に成功目指して頑張ったからこそ、素晴らしいイベントやコンクールが開催できたのだと思います。

残念ながら、この数年は教師会で取り組む行事が少なくなってきました。それでも、若い会員が増えて元気に活動してくれたら、また以前のように素晴らしいイベントやセミナーなどが開催できるようになると思います。特に、日本語教育に携わって日の浅い先生方には、人生と仕事の両方にとって貴重な勉強になるので、ぜひ積極的に活動してほしいと願っています。

中央アジア日本語弁論大会目指してアルマティへ出発！（2010 年）

日本語教師会の使命

ジュヌシャリエワ アセーリ
異文化コミュニケーションセンターNami&Co

「日本語教師会」という名前を初めて耳にしたのは大学で学んでいたときでした。学生時代は、教師会が開催するコンクールや日本語の催しに何度も参加しました。教師会のイベントのおかげで、日本文化に接する機会が増えました。でも学生の自分にとって教師会が一体どんな組織なのか、興味もそれほどありませんでしたし、実際に、ほとんどわかっていませんでした。教師会の活動の意味を考えたのは、自分が日本語教師になって、大きな事業を他の教師会メンバーと協力して実施する立場となってからです。大きな事業を成功させるためには毎回大変な思いをしましたが、イベントを通じて学生たちのモチベーションも高まり、自分自身の達成感も大きく、キルギスに日本語教育を普及させる上で日本教師会の活動はなくてはならないものだ、と思ったものです。



教師会が実施するイベントは日本語学習者向けの行事だけではなく、日本語教師が自分の教える技能を磨き、教授法に関する知識と経験を豊かにする絶好の機会であるセミナーやワークショップ、そして研究大会なども大事な取り組みです。教師にとっても学習者にとっても最も大きなイベントは年に2回実施される日本語能力試験です。2007年から教師会が主催してビシケクで日本語能力試験が実施されるようになり、はるばるカザフスタンにまで出かける必要がなくなりました。その結果、年々受験者が増えています。

教師会では20代と30代の日本語教師を中心に70代までのメンバーが世代を超えて活動していますから、まだ経験が浅い会員でもイベントの企画から実施までベテランの先生にいろいろ教わりながら活動できます。経験談に耳を傾けたり、質問を投げかけたり、返ってきた答えの意味を考えたり、人生経験豊かな先輩会員との交流を通じて自分が人間として、また、教師として成長してきたのがわかります。何かを企画して実現する力がついたように思います。自分が得た知識と体験から学んだことを今後は機会があるごとに教え子に伝えていきたいです。

キルギスにおける日本語教育は、日本語教師会の貢献がなければこれほど多くの学習者を得ることはできなかったと思います。日本語学習者のモチベーションをアップさせるには、学校での授業だけでは不十分です。文化紹介イベント、様々なコンクール、機関や地域を超えた日本語学習者同士の交流など、日本語教師会の取り組みが日本語を学ぶ意欲を刺激するのではないのでしょうか。



日本語教師会活動は自発的に教師会に参加する会員によるボランティア活動です。教師会の活動を通じてキルギスの人々が日本語を学ぶ喜びを知り、達成感を得てくれたら、それはメンバーにとって物理的な報酬に変えられない何よりの励みです。

この場をお借りして、日本語教師会のベテラン教師である先輩会員の皆様に感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。日本語教師会の会報編集責任者として世界中にキルギスに

ついて発信し続けているガリーナ先生、教師会設立当初から変わらずメンバーを精神的に支えてくれているヤネズ先生、私に教師会活動の意義を教えてくれて、日本語教師への道に誘ってくれた名美先生、いつも率直な態度で優柔不断なメンバーを引っ張ってくれるナリーザ先生、そして、その他大勢の教師会の先輩たちに謝意を表したいです。これからも今の気持ちを忘れずにメンバー全員が力を合わせて前に進んでいけるよう願っています。キルギスで日本語を学ぶ人たちが将来、「日本語を選んで良かった」と思ってくれるのが、私たちキルギス共和国日本語教師会のメンバー全員の願いだと思います。



◆刊行の目的

・キルギス共和国日本語教師会の会員等の研究成果・実践報告の発表に資することを目的とする

◆紀要名称

・紀要名称を『キルギス日本語教育研究』とする

◆投稿内容・種類

・日本語教育学、日本学、授業実践・教育事情報告、通訳・翻訳、その関連分野のもので、未公開のもの（ただし、学会等での口頭発表はこの限りではない）
 ・同じ内容の原稿を他誌に投稿している場合（二重投稿）は不採用とする
 ・「研究論文」「教育事情・実践報告」「研究ノート」の3部門を設ける
 ※「研究論文」は編集委員が任命する3名により査読を経て、掲載可否の決定をする

◆投稿資格

・キルギス共和国日本語教師会会員
 ・キルギス共和国日本語教師会会員との共同執筆者
 ・キルギスの大学に在籍する大学院生、学部卒業生、学部生
 ※学部卒業生、学部生については、指導教員またはそれに準ずる者との共著に限る
 ・キルギス共和国日本語教師会会員によって構成される編集委員会が特に認めた者

◆編集・発行形態

・教師会内に紀要編集委員会を設け、3名の編集委員で構成する
 ・年1回刊行（PDF形式、冊子体で発行）

◆原稿の使用言語

・日本語・ロシア語を原則とし、その他の言語については、紀要編集委員会の判断による
 ※ただし、引用・用例の言語は原則として制限しない

◆投稿の方法

・投稿方法は、すべてE-mailでの投稿とする **提出先：紀要編集委員会 kyoushikaikyrgyz.ed@gmail.com**

◆投稿できる原稿数等

・投稿できる原稿は、共同執筆を含め原則として1号につき2編以内とする
 ※ただし、編集上の都合により1編に制限されることがある

◆投稿締め切り

・締め切り日は次の通りとする **2019年10月30日17時（キルギス時間）必着**
 ・提出後の差し替えは一切認めない
 ・締め切り日を過ぎて到着した原稿は、次号投稿分として受理する
 ※掲載時期を勘案のうえ、投稿を取り下げる場合は事務局まで連絡すること
 ・投稿前に必ず執筆要領に沿っているかを確認すること

(<https://jlkyoushikai-kyrgyz.jimdo.com/紀要-キルギス日本語教育研究/投稿ガイド-執筆要領/>)

◆採否の決定

・投稿された原稿は、学会誌委員会による審査を行い、採否を決定する
 ・採否の結果及びその理由については、締め切り日から2か月以内にEメールにて投稿者に通知する

◆査読結果の取扱い

・紀要編集委員会からの査読結果及びコメントその他の通知内容は、当該論文の執筆者に対する伝達を除き、非公開とする

◆論文の公開

・本教師会ウェブサイト内の「教師会紀要 キルギス日本語教育研究」に、全文を公開する

◆著作権

・『キルギス日本語教育研究』に投稿された論文の著作権は、キルギス共和国日本語教師会に帰属する
 ※原稿の他の出版物への転載等は、キルギス共和国日本語教師会の許可を得たうえで行うこと

キルギス共和国日本語教師会紀要編集委員会
 (2019年3月策定)

キルギス共和国日本語教師会会報第53号 2019年8月23日発行
 キルギス共和国日本語教師会事務局 E-mail: kyoushikaikyrgyz@yahoo.co.jp
 賛助会事務局 E-mail: kyoshikai.sanjokai.jimukyoku@gmail.com

https://www.evernote.com/pub/tm0y/kyrgyz_vestnik

<http://jlkyoushikai-kyrgyz.jimdo.com>

<https://ja.wikipedia.org/wiki/キルギス共和国日本語教師会>

https://www.facebook.com/JLteachers.association.KR?ref=aymt_homepage_panel

<http://jlkyoushikai-kyrgyz.jimdo.com/紀要-キルギス日本語教育研究/バックナンバー/>

編集担当：キルギス共和国日本語教師会会報編集委員会 ヴォロビヨフ・ガリーナ、ロディナ・ガリーナ、ミヘルチッチ・ヤネズ

Вестник Ассоциации преподавателей японского языка Кыргызской Республики № 53 от 23.08.2019 г.

Редколлегия: Галина Воробьева, Галина Родина, Янез Михельчич

